



令和7年12月16日分校



チームたかく・はくれい

「なかよく学び すすんで働こう」「希望・意欲・自立」

子どもの育成を目指して -分校 職員会議資料⑩-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう!幸せにしよう!～

上松 武

## ■目線をそろえること ～11/27 教育実習生の研究授業から～



- ・左の写真は、小川教頭先生が教育実習生の研究授業の時に、思わず撮影した一枚です。小川教頭先生は、実習生の小池さんが生徒と「目線をそろえた」ところに着眼されたそうです。
- ・この生徒は課題に対して何をどう書くのか考えあぐねていたのでしょうか。内心とても不安だったと思います。そんな状況で、小池さんは目線をそろえました。
- ・目線をそろえると、どんなことが起きるのでしょうか。Googleで検索したところ、「目の高さを合わせて話すことは、相手への敬意や親近感を示し、信頼関係を築く基本で、特に子どもや部下、目下の人に話しかける際は、膝をついたり座ったりし

て「同じ目線」になることで、内容だけでなく「気持ち」も伝わり、相手に安心感を与え、コミュニケーションが円滑になります。」とAIによる概要として説明がありました。

- ・目の高さを合わせるメリットについても、①親近感と好印象、②信頼関係の構築、③感情が伝わりやすい（同じ目線なら優しく伝わる）、④伝達の確認（相手の感情が見えやすくなり、理解度や反応を確認しやすくなる）の4点を挙げていました。
- ・いつでも目線をそろえてコミュニケーションをとるとは限りませんが、私たち教員は「目線をそろえる」ことを日頃から心にとめて、日々の指導支援に当たる必要があると思っています。先生方はどうお考えになりますか。

## ■知ってもらふことの大切さ ～糸魚川市障害者アート展～

- ・私は前任校でとても悔しくてやるせない気持ちになった出来事があります。
- ・他校の保護者が自分の子どもに対して、「〇〇できないと、(学校名)の子になっちゃうよ」と言ったそうです。その話を聞いた保護者が、「校長先生、この話、どう思いますか?」と声を震わせながら私に訴えてきました。
- ・この訴えを当時のPTA会長に相談したり、学校運営協議会や後援会などで話題にしたりしました。そして、「許せない発言に違いはないのですが、障がいのある人たちをよく理解していないと思います。だから、自分の憶測や思い込みで言ってしまうのではないか。」という一つの結論に至りました。
- ・知らないことは、お互いをとても不幸にします。この先、この現実を変えない限り、「共生社会」の実現はあり得ません。



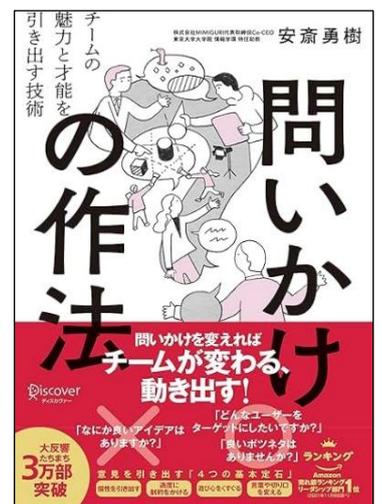
- ・だから私は、教室での学びを日常生活や地域のために生かすことで、障がいのある人も障がいのない人もお互いに関わり合う機会となり、お互いを知る絶好の機会になると考えています。
- ・今回の糸魚川市障害者アート展に今年度初めて参加したことは、白嶺分校の認知度改善につながり、本校が目指している「学校づくりは、まちづくり」

に少しは近づいたのではないかと考えています。

- ・この地域の公共施設で清掃活動をしたり、市内の事業所で実習している時に、「白嶺の生徒さんたち、ご苦労様。いつも、ありがとう!」「白嶺の生徒さんたちからやってもらっていて、とても助かっているよ!」と、生徒たちが今よりも声を掛けてもらえる存在になるよう指導支援をしていきたいと思います。

## ■書籍の紹介

- ・冬休みに入り、少しまとまった時間があると思うので、2つ紹介します。
- ・1つは『ムーちゃんと手をつないで(みなと鈴著・秋田書店)』というマンガです。障がいを抱えて生まれてきた我が子に両親がどんな気持ちで向き合っ、どんな苦悩を経て小1の春を迎え、どう学校生活を送り始めたかが当事者目線で描かれています。当校に入学・進学を決められた保護者とお会いする時、そのお気持ちを考えながら誠心誠意対応しなくてはいけないことに気付かされます。現在8巻まで出ています。後日、持ってきますので、その際はぜひご覧ください。
- ・2つめは『問いかけの作法(安斎勇樹著・ディスカヴァーアートウエンティワン)』という書籍です。最近購入した本です。私は、先生方や保護者の皆さん、地域の方々と「学校づくりは、まちづくり」を具体的に進めていきたいと思っています。そのためには何が必要なのかと考えた時、「問いかけ」の仕方ではないかと考えました。自分一人の考えだけではなく、先生方の考えを聞きながら学校経営をしていきたい。では、どう問いかければ、先生方や保護者のお知恵をいただけるのか。その答えがこの本にあるように思えます。



Amazon ホームページより引用 ↑